

未来を生きる人々のために

小宮 一仁

大学は、未来を生きる人を育てる場です。

私は、昭和 36 年 11 月に東京で生まれ、現在 58 歳です。8 年前に千葉工業大学の学長に就任した時は 50 歳であり、日本にある 783 大学の学長の中で 11 番目に若い学長でした。ただ、私は自分のことをそんなに若いとは感じていませんでした。なぜなら、私はオバマ前合衆国大統領と同じ年だからです。オバマ大統領は 4 年前に 2 期 8 年の大統領の任期を満了して、今は悠々自適な生活を楽しんでいます。オバマ前大統領の他には、陸上選手のカール・ルイスさん、体操選手の

ナディア・コマネチさん、そして故ダイアナ妃とも同い年です。最近少しショックを受けたことがありました。私がオバマ前大統領やカール・ルイスさんやコマネチさんやダイアナ妃と同い年だと学生に話しましたが、学生達は、私とオバマ大統領以外の人を知りませんでした。その時、大学にはこのようなジェネレーションギャップが存在していて、我々の常識や、我々が価値観を感じていることだけで教育を行っているだけでは、学生は興味を示さないだろう、学生との世代差を克服して、学生が興味を持って授業についてくるような教育を行うことを常に心がけなければならないと思いました。そのために我々がやらなければならないことは、大学は未来で活躍する人材を育てるところだという意識を教員が持ち、学生の未来を考え、教育に力を入れることに尽きると思います。

これからは、国力や企業の力が国や人の豊かさを決めるのではなく、人の能力が国や人の豊かさを決める時代になります。だから、今こそ、人の能力を高める教育が必要です。情報通信技術 (ICT) や人工知能 (AI) が飛躍的に発展した現代社会は、

何かが絶対に正しい、何かが絶対に間違っている、という決め方で物事が解決していた過去の時代の社会とは全く異なります。コンピューターに触れたこともなく、それを使ったこともない時代の人々の言うことや方法は、断片的な知識としては役に立つことはありますが、現代社会における課題を解決する本質にはなり得ません。常に変化し続けるこれからの時代では、AI をも取り込んだ多様性を理解し尊重することが大切になります。このような時代の大学は、今すぐに役立つ人を養成しても意味がありませんし、そういう教育をいくら行ったとしても社会貢献に資する成果を出すことはできません。すぐに役立つ人材はすぐに役にたたなくなるからです。決して、人手不足を補うために大学教育を使ってはいけません。そんなことをしようものなら、間違いなく、未来の地球のためになりません。

令和2年11月18日